

# 専徳寺報

第419号

平成27年8月10日発行

浄土真宗本願寺派  
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764  
☎0827-38-1124 FAX38-1000

http://sentokuji-iwakuni.net/

専徳寺

検索

## 歓喜会（盆会）法要

御案内

浄土真宗ではお盆の法要を「かんぎえ歓喜会」と呼びます。故人を通して、仏法に遇えた喜びを味わう法要です。暑い中ですが、ご参詣お待ちしております。

### 日程

日時	8月27日(木)
昼	1時半～3時半
夜	7時半～9時
28日(金)	昼 1時半～3時半

### ご講師

本願寺派布教使

松林 行円 師(安芸高田市)

### 新物故者追悼法要(27日昼座)

新物故者を偲びご遺族の焼香があります。

●法座奉仕 青木地区 ※法座後の片付けをお願いします。

●参拝セット：①念珠②聖典③式章④聴聞カード

※お持ちの方はお忘れなく。④は帳場にありません。

### Q&A 先祖供養でないならば

#### 問

私は毎年、お盆には田舎へ帰り、お墓参りをします。その意味は亡くなった先祖のための供養と思っておりますが、最近、法要を勤め、お寺さんから聞いた話では、「お盆の墓参りは先祖の供養ではない」ということでした。それでは何のために田舎に帰り、墓参りをしていたのかわからなくなりました。お盆に墓参りする意味を教えてください。

(愛知・一門徒)

#### 答

靈山勝海



お盆に郷里に帰って先祖の墓参りするのは日本人の習俗となっております。思い出深い父や母、あるいは祖父母のありし日をしのびながら、墓前に今日こうして過ごさせていただいていることに感謝するのは、美しい習俗だといつてよいでしょう。

しかし、墓参の意味を先祖への供養だとするのはどうでしょうか。供養という意識の中には、先祖のために私が祈つてあげるという心理がはたらいています。祈つて先祖をどうにか出来る力が私にあるのでしょうか。また、祈らねばならないような状況に先祖がいると思つていいのでしょうか。

庄松さんという方は「墓を作つてやるから」という知友の言葉に「わしは死んでも石の下にはおらんぞ」と言つたと伝えられています。肉体のぬけがらとしての骨は土に埋められても、自分は如来の大悲に救われてお浄土に往き、そして衆生済度のつとめをするのだ、土の中で眠っているわけにはいかんという意味でしょう。

山口県柳井の沖にある笠佐島では、お骨は火葬したままで墓は作らないそうです。全戸真宗門徒で、庄松さんと同様の意識からのようです。ある京都で著名な商家ではお骨は大谷の親鸞聖人のところにおさめて、自分の家では墓をもたない主義です。それが法義にかなうという信念によるものです。

人間は自分の果たしえなかつた夢を子供に託すものです。子供こそ親の願いであり期待であり、またいのちなのです。親から子へ、子から孫へと次つぎ伝えられた先祖の願いが、私の中に凝縮していると考えられないでしょうか。中国の『礼記』に「身は父母の遺体なり」とあるのも同じ意味でしょう。

としますなら、真に先祖を喜ばせる方法は私自身がまことの教えにため、永遠のいのちをいただく事ではないでしょうか。その時私の中に凝縮されて一緒にいる先祖もともに永遠のいのちを得るのです。先祖はそれを願っているのです。

先祖に謝念をささげる墓参をあなたが否定しませんが、形式的に墓参するだけではなく先祖を喜ばせようと思つたら、あなたがお寺に参つて説法を聞き喜ぶ以上の方法はありません。

(「やさしい真宗講座」より)

今月初め、縁あつて靈山和上が住職の「法圓寺」(吉田町)にて聴聞・説教させていただきました。暑い中でしたが本堂は満堂でした。和上を育て、和上に育てられた方々にお会いできた事、大きな喜びでした。



専徳寺納骨堂受付中

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

6月3日御往生

青木 高重 武野様(89)

6月5日御往生

通津 中崎ユミ子様(95)

6月26日御往生

通津 畑中 和子様(83)

7月2日御往生

藤生 池本 昭雄様(88)

7月4日御往生

青木 下瀬 武人様(71)

7月6日御往生

藤生 高嶋 文子様(105)

7月11日御往生

南岩国 米本 修治様(95)

7月17日御往生

通津 松岡貴美子様(83)

喪主 松岡 英樹様

喪主 米本 俊一様

喪主 高嶋 正和様

喪主 池本 淑子様

喪主 下瀬 光子様

喪主 高嶋 文子様

喪主 米本 修治様

喪主 松岡 英樹様

ご恩を偲びました

〔法事勤修〕 6/1〜8/2

〔通津〕 森重牧子1、村上恵子3、内山員孝1、浅林博25、前田英子50、竹中信子7、森山峻一1、大倉昇100、岸本圭二17、松本初江100、坪岡規三200、末広則和17、野上ヤツ子3、崎本光英33、松村政雄150、吉柴伸一1、土井勉7、〔保津〕秋嶋啓二25、〔青木〕高重利康7、森上敏雄7、〔藤生〕野原美祢子

13・17、〔南岩国〕山西賢司33、〔平田〕松島勇25、益富弘人1、〔尾津〕木村幸子1、竹重美智子13、〔市内〕谷重スマコ17、村井一生1、〔下松〕木村ハルエ1、7、〔倉敷〕土井フサ子7、〔京都〕谷川幸洋1・3、〔木更津〕佐々江須賀子3

おめでとうございます

法物下付式(入仏式)

6月22日 平田 益富 弘人様  
7月23日 御三尊 青木 下瀬 光子様  
お給仕の慶び一入に存じます。

ありがとうございます(永代経志納)

尊い永代経志を賜りました。謹んでお供えいたします。

金巻拾萬円也 南町 前田 英子様

法要余香(6月17日 仏婦法座)

〔講師〕御園生宣尚師  
〔参詣者〕昼108名。  
〔お供物〕河村アサ子  
〔御報謝〕(仏婦理事)  
河本多喜子、村中恵子、通谷みえ子、北本時枝、深井絹代、村岡房江、木村裕見子、高嶋むつ子、(仏婦役員)米本政子、米村敏子、村重京子、高林藤江、塩中幸枝、佐々井尚子、中柴節子、吉柴恵子、白井田鶴子、中谷瑞恵、岡田美津江、古川和枝、竹田典子、畝狭雅子、土井和枝、村中恵子、土井トシコ、米本ふさ江、広重和子、村岡房江、木村初江、弘中緑、木村郁子、弘中弘子。



仏具おみがき(7月25日 専徳寺倶楽部 夏の集い)

〔参加者〕浅井佐、小方基史、中原政裕、岸井清市、白田憲光、高林宏明、半田正昭、増本真一、村重親男、増本英一郎、村中紀一郎、(白田敬子、村中久子)  
※括弧内は親睦会参加。  
ご参加ありがとうございました。



ご報告いたします

聞法のつどい

〔日時〕6月3日〔会場〕西福寺〔講師〕今井雅晴  
〔講題〕恵信尼さまと親鸞聖人〔参加人数〕165名  
〔参加〕住職・坊守・藤中康子・末広美代子・水上三千代・末広皓子・大田貞子・稲本順子。  
坊守会主催による初めての開催でした。

岩国組門徒総代会総会

〔日時〕6月26日〔講師〕ビマラワンサ師(スリランカ僧侶)〔講題〕日本での仏教活動に思うこと〔参加〕白田尚則、高林雅信、呉田勝彦、神田隆司、住職

ご案内いたします

前進座特別公演

①如月の華 ―九条武子ものがたり―

〔日時〕10月13日(火)

〔場所〕山口市市民会館

(大ホール)

〔費用〕5千円

〔申し込み〕8月28日(金)

(歓喜会法要の御満座)ま

でに専徳寺へお申し込み

ください。

②仏婦秋研修旅行

〔日時〕11月2日(月)

〔場所〕萩方面〔定員〕30名

〔申し込み〕電話もしくは仏婦月例会にて、9月下旬までにお申し込みください。



ついたち礼拝(月のはじめは礼拝日) 9月1日(火)・10月1日(木)

午前9時より45分間